

# カリキュラムマップ（総合子ども学科）

総合子ども学科のカリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

1. 保育・教育の場で必要とされる実践力、現場対応力を涵養する。保育実習や教育実習をより深い学びとするための事前・事後指導の質的な充実を図る。並行して基礎演習、教職実践基礎演習、保育表現技術、また幼保実践演習や教職実践演習を段階・発展的に履修する。下記にも示す地域・子どもに関わる実際の機会を通してこれら実践力を高める。
2. 子どもに関わる諸問題について、実際の保育・教育現場との関連を示しながら提供し、視点や知識の自覚化に基づく自律した学びを進める（実際の現場で求められる力は何かという問いを持ち、追究する）。具体的には、地域や子どもに関わる機会を学生自ら企画・演出し、保育・教育現場における必要な視点や知識を自覚し、随意的に発揮していけるよう、子ども学演習および卒業演習において理論化を目指す。
3. また、子どもの育ちに職業人として関わることの重要性の自覚とその責任感を涵養する。教育原理、保育原理、社会的養護といった教育・福祉の基礎理論に当たる学びに加え、子どもを総合的に学ぶ子ども学を履修する。これらを通し、教える者であるために必要な生涯学び続ける姿勢を養う。

総合子ども学科のディプロマポリシー（学位授与の方針）

1. 知識・理解
  - (1) 保育・教育・福祉・医療・心理などの領域で構成される子ども学の知識を深く理解している。
  - (2) 子どもの成長発達を支えるために必要な専門的知識や技能を身につけている。
  - (3) 子どもを取り巻く環境や事象が子どもの発達に与える影響や、保育者、教師、家庭・地域の人々が果たす役割について理解している。
2. 汎用的技能
  - (1) 保育・教育に関する数量データを含む情報を自らの問題意識に基づいて収集し、統計学の技法等を活用して、論理的に分析・考察することができる。
  - (2) 子どもの成長発達を支える現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など立場の異なる他者に寄り添うことができる。
  - (3) 他者の考えを受け止めながら自分の考え方が伝わるように表現し、問題の共有や解決のために協働することができる。
3. 態度・志向性
  - (1) 人間の成長発達の最も重要な時期に保育者・教師といった職業人として関わることの自覚と責任感をもっている。
  - (2) 従来のあり方に固執することなく、目の前にある問題や社会的課題の解決を目指して学び続ける姿勢をもっている。
  - (3) 現場の保育者、教師、家庭・地域の人々など多様な他者と連携・協働し、子どもを第一に考えた判断ができる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
  - (1) 子どもの成長発達についての専門的知識や実践的な学びに基づいて、自ら計画を立案し、実践、振り返りのマネジメントを適切に行うことができる。
  - (2) 子ども学の知識と、保育・教育現場における様々な経験を統合し、自ら課題を発見し、問題の解決策を提示し、それを実践することができる。

総合子ども学科カリキュラム								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)	
総合子ども学基礎演習Ⅰ	1. 大学での学び方を修得する。 2. 保育・教育に関する授業を通じて、子どもに関わる楽しさを理解する。 3. 授業を通じて共に学ぶ仲間づくりを行う。	1. 大学で学ぶ目的が分かり、大学生活に目標を持つことができる。 2. 仲間とともに協働で考え、表現することができる。	2	○	1	前期	1	体験学習 グループワーク	◎	○	◎	○
総合子ども学基礎演習Ⅱ	1. 大学で学ぶ上で必要なリテラシーの基礎を習得する。 2. 保育・教育実践を通じて、子どもを総合的に捉える視点を養う。 3. 絵本についての基礎知識、および、保育・教育現場で活用できる絵本を制作し読み聞かせる技術を身につける。	1. 大学生活および実習に必要な論理的な文章を作成することができる。 2. ねらいを持って、保育・教育実践に参加することができる。 3. 子どもにとっての絵本の意味について自分なりに説明することができる。 4. 保育・教育現場で活用できる絵本を制作し、読み聞かせることができる。	2	○	2	前期	2	体験学習 グループワーク	◎	○	◎	○
子ども学演習Ⅰ	青年も含む子どもの健やかな心身の発達や積極的な対人交流・社会参加を阻む課題状況に目を向け、それが何によってもたらされているのかを探索したり、それがどのような取組によって解決しうのかを考究したりする。この授業は対面によって実施しますが、初回の授業（ゼミ）だけはオンデマンド方式(Moodle)でのオンラインでおこないますので留意してください。	・文献資料等を活用して、上記「授業のねらい」を達成する。 ・支援の現場に向向いて体験的に学ぶことを通して、上記「授業のねらい」を達成する。 ・上記2つの到達目標は、基本的にグループ活動を通して達成する。	2	○	3	前期	3	調査学習 グループディスカッション	○	○	○	◎
子ども学演習Ⅱ	前期のゼミにおける学びを踏まえて、卒業論文のテーマ設定を意識しながら、青年も含む子どもの健やかな心身の発達や積極的な対人交流・社会参加を阻む課題状況に目を向け、それが何によってもたらされているのかを探索したり、それがどのような取組によって解決しうのかを考究したりする。	・文献資料等を活用して、上記「授業のねらい」を達成する。 ・支援の現場に向向いて体験的に学ぶことを通して、上記「授業のねらい」を達成する。 ・上記2つの到達目標は、卒業研究を視野に入れたグルーピングによるグループ活動を通して達成する。	2	○	3	後期	3	調査学習 グループワーク	○	○	○	◎
子ども学演習Ⅲ	この授業は、「卒論準備」を目標とする。各自の卒論テーマに従って、発表と討論を行う。 卒論とは、各自が自分で問題を設定し、その問題を自分で解くことである。 第1回目の授業は同時双方向型オンライン授業とする。	・卒論のテーマを決める。 ・卒論テーマにそって文献収集し、読み込む。 ・論文を書くための基本的な“作法”とスキルを理解する。 ・調査研究する場合は、予備調査等、調査の準備をすすめる。	2	○	4	前期	4	調査学習 グループディスカッション	○	○	○	◎
子ども学演習Ⅳ	卒業研究執筆に際し、文献の探し方・読み方、資料の収集と分析の方法、論文の書き方などの研究の手法を習得する。	1.卒業研究に必要な文献を読み、要旨をまとめることができる。 2.資料を収集し、分析・整理することができる。 3.分析結果を文章で構成し、論理的に説明することができる。	2	○	4	後期	4	グループディスカッション プレゼンテーション	○	○	○	◎
卒業研究演習	1.受講者の問題関心にもとづき、卒業論文を完成させる。 2.学術論文作成に必要なスキルを習得する。	1.みずからの問題関心にもとづいて、明確に研究課題を設定することができる。 2.資料にもとづいて、実証的な論文を執筆することができる。 3.論旨の一貫した、まとまりのある文章を書くことができる。	2	○	4	後期	4	卒業論文の作成	○	◎	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
現代教育論	公教育というシステムは、高度に文明化されかつ複雑化した現代日本の社会に生きる子どもたちに対して、等しく教育を受ける権利を保障するものとして機能している。しかしその一方で、現実に対応しきれておらず、子どもたちのニーズに応えるものとはなり得ていないという批判も、近年は多くみられる。本授業を通して、現代日本の公教育システムの現状と課題について考察を深め、公教育システムのありようを探究することを目的とする。  ※ Moodleを用いて遠隔授業を行う。	1.現代日本の公教育システムの意義と課題について理解することができる。 2.公教育システムのありようを、幅広い視点からとらえることができる。	2	1～	後期	1	授業に関する質問や意見を記したコメントシートの提出を学生に求める。次の回の授業ではコメントシートにもとづいてフィードバックを行い、学生の質問や意見を紹介するとともに、回答やコメントを教員が述べ、授業に対する学生の理解と関心を深めることを目指す。	◎	△	○	○
人間発達論	授業の概要 人の行動や思考、認知、人格の発達の方向やその段階には多くの人に共通する一定の普遍性が存在する。その一方で発達段階が異なれば、同じ年齢の子どもであっても、物事の理解の仕方、人間関係や自己の築き方、達成すべき発達課題も異なる。この発達の普遍性と個人差を理解することは、日常の保育を計画するうえで保育者が常に留意しておかなければならない事項である。この授業では、主として認知発達、言語発達、人格発達に関して、その発達の普遍性と個人差について理解する。また、発達を促す要因として、養育者の関わりが重要な役割を果たしていることについても理解する。  この授業は全てMoodleから動画配信によって行います。Moodleへの課題提出をもって出席とします。	授業のテーマ及び到達目標・定型的な発達について学ぶ意義を理解する。 ・言語、思考、運動、人格、社会性の発達に関する各発達段階の特徴を理解し、発達段階に応じた養育者、保育者の関わりについて理解する。 ・非定型発達の子どもの行動的・認知的特徴を理解し、必要な支援の方法を理解する。	2	1～	前期	2	授業で学んだ知識に基づき、保育、教育に関わる個別の問題への対応の仕方について、グループで討議する。	◎	○	○	△
教育心理学	この授業は教育・保育に関する心理学的な知見について理解すると同時にそれらの知識を教育や保育の場で役立てられるようになることを目的とする。 西尾は主に児童の心身の発達および学習の過程について述べる。 梅崎は、主に乳児から幼児の運動発達、人格発達、社会性の発達の視点について、具体例に基づき述べる。 本授業は2022年度もオンラインでの実施が予定されている。各回の資料ならびに課題はMoodleにて配信される。指示に従って、出席と課題提出を行うこと。	・幼児、児童及び生徒の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を習得する。 ・各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ・発達・学習に影響を及ぼす環境(生態学的側面と社会文化的側面)について理解する。 ・社会適応を支える教師の役割を理解し、発達アセスメントと保護者支援の実践について知る。	2	2～	後期	2	心理学的知識に基づき保育実習の経験を省察しながら、現代的保育/教育の課題についてディスカッションを行う。	◎	△	○	○
人間発達研究法	本授業では、人間発達及び行動に関する研究法として、主に量的な研究方法について学ぶ。また、研究の基礎的知識として、文献検索の方法を学ぶ。実証的研究では、実際に自ら計画し、実行することで初めて理解でき、またその不備などに気付くことができる。この授業では履修生自ら研究を計画し、実施、分析、考察することで、量的な研究方法について学ぶ。 #調査法 #質問紙 #アンケート #研究 #卒業研究 #統計 #データ	1.インターネット経由のデータベース及び図書館の利用法から文献検索法およびその留意点について理解する。2.質問紙調査に関する基本的用語、実施方法および留意点を理解する。3.統計分析に関する基本的な用語、分析方法(t検定、 $\chi^2$ 乗検定、相関分析、分散分析)およびその留意点について理解する。	2	3～	後期	3	受講生自らがグループごとに研究計画を立案、アンケート調査実施、結果分析を行う。更に、分析結果に基づき各自が考察した結果を、レポートとしてまとめる。	◎	◎	△	◎
教育社会学	学校をめぐるさまざまな状況の変化やそれに対応するための近年の教育政策を俯瞰し、さらには世界の教育動向に触れながら、子どもの生活の変化とそれともなって学校が直面する指導上の課題について考える。また、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方や、学校安全の目的やとりくみについて学ぶ。なお、オンライン授業は、CampusSquareとMoodleを使用して行います。	授業のテーマ:教育に関する社会的な事項における基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。 到達目標:社会状況の変化がもたらす現代教育の課題や子どもの生活の変化と指導上の課題のほか、近年の日本の教育政策や世界の教育改革の動向、さらには学校と地域との連携や学校安全への対応について理解する。	2	2～	前期	2		◎	△	◎	○
教育方法論	「主体的・対話的で深い学び」の意義や具体的な方法、学習評価の基礎的な考え方と具体的な方法、基礎的な技術(話法や発問、板書、教材提示、机間指導など)、情報機器の種類や効果的な活用方法、GIGAスクール構想の実現等を理解した上で、適切に学習指導案を作成できる。ワークシートの設問に従いながら、関連資料や具体的な保育や授業の事例分析、NHK for Schoolなどの関連番組の視聴を踏まえて、できるだけ実践的な方法を取り入れて学習を進める。 なお、1回目の授業の方法や課題についてはCampusSquareから配信するのでご注意ください。	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (1)これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の意義や具体的な方法について理解する。 (2)学習評価の基礎的な考え方と具体的な方法を理解する。 (3)GIGAスクール構想の実現を踏まえた上で、授業や保育を行う上での基礎的な技術(話法や発問、板書、教材提示、机間指導など)を理解する。 (4)子どもの実態、目標・内容、教材・教具、活動・展開、学習形態、評価基準・方法等の視点を含めた学習指導案を作成できる。 (5)情報機器の種類や効果的な活用方法を理解する。	2	2～	前期	2	具体的な授業の事例分析や発表やグループ協議を数多く取り入れ、学生自らアクティブ・ラーニングを体験する。	◎	◎	○	○
教育方法・技術論	子どもの心を動かし育てる学校教育では、多くの教育方法や教育技術が駆使されている。本講義ではその具体的な方法・技術を体験的に習得すると共に、その教育的意義を知り教育実践に役立てる技能を育成する。また、情報機器を活用した効果的な授業方法や情報活用の技術(情報モラルを含む)を身につけることを目的とする。	1.教育方法の基本原則を理解し、その基礎的な方法と技術を身に付ける。 2.教育における「教え」と「学び」の基本構造について理解し、実践的な授業方法を身に付ける。 3.教育におけるICT活用についての基礎的な技術を身に付け、子供たちの情報活用能力を育成するための指導法を理解する。	2	2～	前期	2		○	○	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きたい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
教育におけるICT活用	社会的背景の変化や急速な情報技術の進展に関する理解を深めた上で、資質・能力の一環としての情報活用能力、その育成のための授業づくりやICT活用、教育情報セキュリティ、情報モラル、情報通信技術を効果的に活用した校務の推進に意義や方法に関して具体的な活用事例を踏まえて学ぶ。オンデマンドになった場合は、教員からの課題提示及び受講生からの課題提出はCampusSquareを使用する。	(1)情報にかかわる社会的背景の変化や技術の進展の中で求められる資質・能力の育成に繋げる個別最適な学びと協働的な学びの実現課題及びICTの役割及び効果的な活用方法について理解する。(2)学習履歴など教育データを活用した指導や学習評価及び教育情報セキュリティの重要性と具体的な方法について理解する。(3)情報モラル教育の必要性とそのための具体的な指導事例について理解する。	1	3～		3	グループディスカッション及びチームによるオンライン協働学習支援ツールを活用した指導案作成ワークショップ	○	◎	○	○
教育課程論	教育課程の意義や教育課程編成の考え方・方法、時代背景と学習指導要領の関連、「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの意義・役割及び学習評価とカリキュラム評価の考え方・方法を理解する。 なお、オンデマンドになった場合は、教員からの課題提示及び受講生からの課題提出はCampusSquareを使用する。	(1)教育課程の役割と機能、意義及び教育課程編成の考え方・方法について理解する。 (2)時代背景と学習指導要領の変遷・特徴、新学習指導要領の特徴を理解する。 (3)育成を目指す資質・能力の3つの柱と教科横断的な教育課程編成の意義と方法を理解する。 (4)「社会に開かれた教育課程」の実現とカリキュラム・マネジメントの意義・役割及び学習評価とカリキュラム評価の考え方・方法を理解する。	2	2～	後期	2	具体的な実践事例や記録映像を基に考え、発表し、グループ協議を取り入れる。	◎	○	○	○
教育史	今日の日本の学校教育がいかなる経緯を経て形成されたか、家庭と子どものありようがいかなる変化を遂げてきたのか、ということについての理解を深めるために、日本の教育と子どもの歴史を概観する。その際、西洋の教育と子どもの歴史についても眼を配り、西洋近代教育学と現代日本の教育との関わりについても、折にふれて考察する。こうした作業を通じて、今日の教育を歴史的背景から考えることの必要性について、認識を深めることができるようにする。	1.日本社会の変容に伴い変化した教育の理念や方法について理解する。 2.子どもの養育に際しての日本の先人たちの工夫や努力を理解する。 3.学校教育の意義と課題や家庭と子どものありようについて歴史的視点から考えることができる。 4.西洋近代教育学と現代日本の教育との関わりについて理解する。	2	3～	後期	3	適宜グループワークを実施する。	◎	△	○	○
教育相談	教育相談の意義や役割について学び、教育相談で必要となるカウンセリングの基礎的な知識や態度を理解する。また幼児、児童の問題行動の捉え方や発達障害について理解し、保育・教育現場での支援方法について考えることを目的とする。 Moodleを使用して行います。	1.教育相談で必要となるカウンセリングの基礎知識と態度を身につける。 2.保育・教育現場で幼児や児童、また保護者に対して、カウンセリングに基づいた関わり方ができる。 3.自己理解を深め、さまざまな角度から物事を捉えることができる。	2	3～	前期	3	グループワーク	◎	◎	△	○
生涯学習論	【授業のねらい】 教育あるいは学習という言葉から何を連想しますか？おそらく多くの方が、子どもや学校を思い浮かべることでしょう。しかし、教育を受けたり、学習に取り組んだりするのは子どもだけでしょうか？ また、教育や学習が行われる場所は学校だけでしょうか？ 生涯学習論を学ぶ意義は、まさにこれらの問いのなかにあります。 この授業では、生涯学習に関する次の6つの事項を理解できるようになることを目的とします。 ①生涯学習・社会教育の本質と意義 ②生涯学習に関する法令・制度・行政・施策 ③家庭教育・学校教育・社会教育の連携と協働 ④生涯学習関連施設・社会教育施設(公民館・図書館・博物館・生涯学習センターなど)の役割 ⑤生涯学習支援に携わる人々(図書館司書・博物館学芸員など)の役割 ⑥生涯学習支援の具体的な方法  【オンライン授業について】 当該科目はオンライン授業(オンデマンド型)となります。Moodleを通じて、各回の授業の動画(音声付きPowerPoint)を配信いたします。また、授業に関する連絡事項はCampus Squareを通じてお知らせいたします。なお、講義スケジュールにつきましては、受講者数や受講者の興味・関心、授業の進捗状況に即して、臨機応変に対応いたします。  【授業の進め方】 ①授業の動画(音声付きPowerPoint)をご視聴ください(配付資料も合わせてご利用ください)。 ②Moodleを通じて、所定の期限までに課題(小レポート)をご提出ください。 ③ご質問やご相談などがございましたら、電子メールにて担当教員へお問い合わせください。	次の2つの事項がこの授業の到達目標です。 ①生涯学習に関する基礎的な知識を修得することができる。 ②生涯学習に関する基礎的な知識をもとに、自分の考えを論じることができる。	2	2～	後期	2	グループワーク	◎	△	○	○
子ども学	授業の概要「子ども学」とは一つの学問体系を表すものではなく、子どもに関わる様々な知見や研究・実践アプローチの学際性にその特徴がある。この点から考えて「子ども学」を学ぶ学生が目指すべき到達点は、子どもに関する様々な学びの輻輳的な集約ではなく、個々の領域での学びが学習者の内で相互に結びつくことであり、多様な視点から子どもを見つめ、理解しようとする姿勢の涵養であり、それらを実践の場で生かそうとする意志の涵養でなければならない。この授業では、発達心理学、言語学、教育学、小児科学、社会学、保育・教育実践など様々な領域における子どもに関する知見を、それらの関連を意識しつつ、一つの科目「子ども学」として学ぶ。学習者は他の学習者との積極的に交流し、学問領域を超えた知見の結びつきを自ら発見してもらいたい。#子ども #こども #子供	授業のテーマ及び到達目標・授業で学ぶ子どもに関する様々な領域の事柄を、保育・教育的実践の視点から総合的に結び付けて考える姿勢を身につける。 ・大学における子どもに関する様々な学びを主体的に結び付けて考えることができる。	2	1～	後期	3	この授業では、担当者からの発問に対して、受講者全員がインターネットを介して自分の意見を述べる。選択肢による回答は即時的に集約され、その場でフィードバックされる。自由記述による回答は、その一部が授業内および次回授業の冒頭で紹介される。	○	△	◎	◎



授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
子ども家庭福祉論	子ども(0歳～18歳)の成長・発達と家庭環境(保護者の養育のあり方も含む)とは、不可分に結びついています。私たちの社会には、様々な事情から、子どもや家庭の健全さ(Well-being)が脅かされる状況が現出しています。この授業では、子ども観の歴史、福祉という理念の捉え方、子ども家庭福祉の背景や理念、子育て家庭が抱える困難さの背景と現状、こうした困難さを予防したり改善・解決したりするための支援方策(法律、制度、サービスなど)について理解することを目的とします。なお、この授業はオンライン(Moodleを通して)進めていきます。	・古代からの日本人の子ども観の変遷を概観して説明できるようにする。 ・乳幼児期から青年期までの子どもの健全やかな発達の様相とそれを支える家庭環境のあり方を、各時期の「発達課題」とともに説明できるようにする。 ・子ども家庭福祉におけるユニバーサル支援とターゲット支援の相違、それぞれに対応する制度・サービスを説明できるようにする。 ・ターゲット支援のうち、貧困、障害、虐待といった問題をかかえる家庭と子どもの現状を説明できるようにするとともに、その支援のあり方を構想できるようにする。 ・わが国の子どもの家庭福祉の今後について、不平等(格差)の是正および共生社会の実現という理念に基づいて、考察できるようにする。	2	1～	前期	1		◎	○	○	○
保育原理	保育とは何か。保育の意義及び目的、法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史の変遷を理解し、保育の現状と課題について考察することを通して、乳幼児の発達において重要な保育の原理を学ぶ。	1. 保育の意義および目的について説明できる。 2. わが国における保育に関する法令及び制度を説明できる。 3. 保育所保育指針における保育の基本について、具体例をもとに解説することができる。 4. 保育の思想と歴史の変遷を提示することができる。 5. 保育の現状と課題を列挙できる。	2	1～	前期	1	グループワークにより議論し、意見をまとめ、発表する。	◎	○	○	△
社会的養護	「社会的養護」の理論的側面について、以下の5つのテーマに基づき学習を進めていきます。 (1)現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 (2)子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 (3)社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 (4)社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 (5)社会的養護の現状と課題について理解する。	(1)授業のねらいに示した(1)～(5)を中心に社会的養護に関する基礎的事項を説明することができる。 (2)社会的養護に関する学習の成果から、子どもの最善の利益を考慮した社会的養育のあり方、子どもと家庭(保護者)への支援の方法について自身で考察することができる。	2	1～	後期	1	公立保育所保育士採用試験の問題を授業に取り入れ、社会的養護の出題傾向を学生に考えさせている。	◎	△	○	○
保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容を理解するとともに、保育の基本を踏まえた子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程を理論的・実践的に学ぶ。	1.保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容の関連を理解する。 2.保育内容の全体的な構造を理論的・実践的に理解する。 3.保育の実際に即して、計画・実践・観察・記録・評価・改善の重要性を理解する。 4.保育内容の歴史の変遷を理解する。 5.現代の保育の多様な展開を知る。	1	2～	後期	2	子育て支援プログラムの作成、実践ビデオに基づくグループワーク	◎	○	○	○
保育相談支援	学生が保育者の実践している保育相談支援について知り、保育相談の支援方法について理解できるようになることを目的とする。保育相談支援事例のケースワークを通して理解を深めていく。保育者・教育者として、保育相談支援を実践できる力を身に付けることをねらいとする。	保育相談支援の考え方を説明できる。 保育相談支援の方法を身につける。 保育相談支援の実践について、支援方法を述べるができる。	1	4	後期	4		○	◎	◎	◎
幼児教育学	幼児教育の基本的概念および幼児教育の理念について学ぶとともに、それらが教育の歴史や思想においてどのように保育実践として具体化してきたのかを理解する。  オンライン授業の場合、Moodleを使用して授業を実施します。	本講義は、保育者にとって必要な幼児教育学に係る知識・技能・態度を身に付ける。 1.幼児教育学の基本的概念および教育の本質・目標を理解する。 2.幼児教育の歴史に関する基礎的知識を学び、今日の幼児教育の課題を歴史的な視点から理解する。 3.幼児教育に関する代表的な教育家の思想を理解し、実際の幼児教育との関係を理解する。	2	2～	後期	2	グループディスカッション	◎	○	○	○
幼児教育課程論	幼稚園教育要領を基準として、各幼稚園およびその他の保育施設において編成される全体的な計画の意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実際の状況に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。  オンライン授業は、Moodleを使用して行います。 授業内容の順番が前後することがありますが、学修内容の変更はありません。詳細は授業担当教員の指示に従ってください。	保育者にとって必要な教育課程および指導計画に関わる知識・技能を身に付ける。 1.幼稚園教育における教育課程が有する役割や機能、意義を理解する。 2.幼稚園教育における教育課程の基本原則、教育課程編成の方法を理解する。 3.指導計画の振り返りを通じて、カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。	2	2～	前期	2	指導案の作成およびグループディスカッション	◎	◎	○	○
子ども社会学	現代社会における子ども問題を概説し、その理解を深める。なお、オンライン授業は、CampusSquareとMoodleを使用して行います。	1.子ども問題に関する興味や関心を広げ、問題意識をもつことができる。2.考察した結果を文章で適切に表現できる。	2	1～	後期	1	グループディスカッション	◎	△	◎	○
遊び学習論	幼稚園において育みたい資質・能力を理解し各領域のねらい及び内容について理解を深め、アクティブ・ラーニングの視点から保育構想及び保育実践の向上に取り組む。  なお、本授業は対面授業とオンデマンド授業を併用するものとする。	1.幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 2.遊びを通じた幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 3.模擬保育とその振り返りを通じて保育の計画とその改善の視点を身に付ける。	2	3～	前期	3	グループワークによる議論および発表	○	◎	○	◎
幼児理解	保育の基本となる子ども理解について、子どもの発達や遊びと生活の実態をふまえて、具体的な事例をもとに記録を行い、子どもの姿や、保育者としてのかかわりや援助等について考察を深める。それを基にしたグループワークや発表を通して意見の共有を図り、子ども理解における多面的な視点を身に付ける。	1.子どもの遊びや生活の実態に即した子ども理解の意義を理解し、説明できる。 2.子ども理解の方法を具体的に理解し、説明できる。 3.多面的な視点から子どもを捉えることの重要性を理解し、具体的に提示できる。 4.子ども理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解し、説明できる。 5.保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解し、提示できる。	2	2～	後期	2	グループワークにより議論し、意見をまとめ、発表する。	◎	◎	△	○
国際子ども理解	諸外国の特色ある保育内容及び方法を理解するとともに、その背後にある理念や幼児教育に対する考え方を理解し、具体的な保育実践の検討を通じて、我が国の保育実践の質的向上を図るために必要な知識・技能を身に付ける。  なお、本授業は対面型とオンデマンド型を併用するものとする。	1. 諸外国の幼児教育の動向と保育の理念を理解する。 2. 諸外国の特色ある保育内容・方法を理解する。 3. 諸外国の保育と我が国の保育を比較し、両者の特質と意義及び課題を説明することができる。	2	3～	前期	3	グループディスカッションおよびプレゼンテーション	◎	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
教職論	・幼稚園教諭の仕事の意義や役割を歴史・理念・制度・実態などから多角的・多面的に理解、学び続けることの大切さを知り、教職への意欲を高める。(上田) ・小学校教諭の意義や役割及び職務内容と求められる資質・能力を資料読解や協議を通して理解し、優れた小学校女性教師の事例分析からさまざまな現場における課題に対してどのように対応するか、教職に向けて4年間をどう過ごしていくかを考える。(村川) CampusSquareとMoodleを使用して行います。	・幼稚園教諭の仕事に関心をもち、仕事の意義や役割、職務内容等基礎的・基本的な事項を資料等から理解する。(上田) ・今日的に求められている保育者の資質能力、望ましい保育者像について理解する。(上田) ・子どもを中心において保育者同士、地域、専門機関との連携及び研修の重要性を理解する。(上田) ・小学校教諭の職務内容を理解し、学校現場におけるさまざまな課題に対する対応策とそのために求められる資質・能力を考えると共に、教職に向けてどう学んでいくかを具体的に考える。(村川)	2	1～	前期	1	課題解決を目指したグループワーク	○	○	○	○
教育原理	人類が培ってきた教育の歴史や先人の教育思想を学ぶことで、教育に携わるうえで欠かすことのできない教育の理念について考える基盤を身につけることを本授業の目的とする。  本授業では、教育とはそもそもいかなる目的のもとに始められたものなのか、という疑問から出発しつつ、今日の学校教育が形作られるに至った背景を、歴史的、思想的にとらえていくこととする。  現代の学校教育をめぐむ状況が複雑かつ多様化するあまり、私たちは教育のもつ人間形成という本質的な機能を見失いがちである。しかしむしろこのような状況にあるからこそ、「教育とは何か」という本質的な問いに立ち返って、現代の教育事象を考察することが重要なものではなからうか。  社会の変化が急速な今日、学校現場においても諸課題に対しての教師の迅速、かつ的確な対応が求められている。こうした要請は喫緊のものであるが、それゆえに、教育に対する深い理解、さらには学校教育の意義に対する歴史的、思想的洞察にもとづいた総合的な判断力が、教師にとって不可欠なものになっているといえよう。  学校をめぐむ今日の状況をふまえ、教職を目指す者として、教育の理念や歴史、思想を深く理解し、「教育とは何か」という本質的な問いに立ち返って現代の教育事象を考察することができるよう、授業を進めていきたい。  ※Moodleを用いて遠隔授業を行う。	2	2～	後期	2	授業に関する質問や意見を記したコメントシートの提出を学生に求める。次の回の授業ではコメントシートにもとづいてフィードバックを行い、学生の質問や意見を紹介するとともに、回答やコメントを教員が述べ、授業に対する学生の理解と関心を深めることを目指す。	◎	△	○	○	
幼児と健康	領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。	(1) 幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する  (2) 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する  (3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する  (4) 幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する	1	1	前期	1	当該領域の学びに関係する問いへのフィードバックの共有	◎	○	○	○
幼児と人間関係	領域「人間関係」の指導の基礎理論である関係発達論的視点から、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを学ぶ。	1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐむ現代的課題を理解する。2. 幼児期の人間関係の発達について、関係発達論的視点から理解する。3. 幼児期の道徳性・規範意識の育ちを理解する。4. 幼児期の協同性が仲間と協力して取り組む活動を通して育つ過程を理解する。	1	3		1	ビデオや観察を通じたグループワークによる事例検討とディスカッション及び発表	◎	○	○	○
幼児と環境	領域「環境」の指導の基盤となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境とのかかわりの発達等について学ぶ。	1. 幼児を取り巻く環境の諸側面(物的環境、人的環境、社会的環境、安全等)と、乳幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。  2. 幼児期の認知的発達の特徴をふまえて、乳幼児の身近な環境(数量・図形・生物・自然・標識・文字等)とのかかわりについて説明できる。  3. 幼児期の生活に関係の深い地域・情報・文化に対する興味・関心やかかわり方を説明できる。	1	1	後期	1	グループワークにより議論し、意見をまとめ、発表する。	◎	○	○	○
幼児と言葉	領域「言葉」の指導の基盤となる、言葉の意義と機能、言葉に対する感覚を豊かにする実践、言葉と表現力を育む児童文化財について学ぶ。	1. 人間にとっての言葉の意義と機能を説明することができる。  2. 幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、例を挙げることができる。  3. 幼児の言葉と表現力を育む児童文化財について理解し、絵本の読み聞かせなどを行うことができる。	1	3		1	グループワークにより議論を行い、また、模擬保育に取り組む。	◎	○	○	○
幼児と音楽表現	領域「表現」のねらい及び内容を様々な見地から学ぶことを通して、幼児の創造的・主体的かつ協働的な表現活動を支援するための知識や技能を身につける。	1. 幼児の表現の姿やその発達を理解・共感することができる。  2. どのような音楽表現が幼児にとって適しているか判断することができる。  3. 幼児の音楽表現を支援する知識・技能を有する。	1	3		1	主体的に表現活動を創造し、共同して創作に取り組む。	◎	○	○	○
幼児と造形表現	領域「表現」における知識・技能を身につけることをめざす。いろいろな素材の特徴を学ぶことで「遊び」に対しての意識を高める。	1 造形表現の知識と技法を知り幼児の表現活動に生かすことができる。  2 幼児の表現の基となる「遊び」を促す、より良い環境を積極的に取り入れることができる。	1	3		1	体験学習 グループワーク	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に お書きくだ さい)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
保育内容の指導法(健康)	授業の概要 幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身につける。特に乳幼児期の健康に関わる生活慣習や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。 授業のねらい (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	ねらい(1)について 1)幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し、身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「健康」において幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 ねらい(2)について 1)幼児の心情、認識、思考および動き等を踏まえた保育構想の重要性を理解している。 2)領域「健康」の特性および幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	2	1～	後期	2	領域「健康」に関する保育の構想と実践	○	○	○	○
保育内容の指導法(人間関係)	領域「人間関係」のねらい・内容の理解、幼児の人とかかわる能力の発達の過程の理解とともに、「人とかかわる力」を育てるための保育者の援助のあり方を考える。	・幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解する。 ・領域「人間関係」のねらいや内容を、保育の実際に即して理解する。 ・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域の総合性を理解する。 ・保育を構想し、「人とかかわる力」を育てるための指導上の留意点を理解する。 ・幼稚園教育の評価の考え方、小学校教科等との関連性を理解する。	2	3～	前期	3	領域「人間関係」に関わる保育指導案の作成と実践・評価(模擬授業)、グループワーク	◎	○	○	○
保育内容の指導法(環境)	子どもが生きる世界としての環境、子どもが好奇心や探究心をもって主体的にかかわることのできる環境、環境を通して行う保育のあり方について、活動を通して実践的に学ぶ。	1. 領域「環境」のねらい及び内容を具体的に理解し、説明できる。 2. 領域「環境」のねらい及び内容をふまえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を具体的に理解し、説明できる。 3. 子どもの認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、説明できる。 4. 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な保育場面をさまざまな方法で構想することができる。 5. 計画・実践・省察を通して保育を改善する視点を身に付けている。	2	3～	前期	3	グループワークにより、議論、意見の取りまとめ、製作、発表などを行い、保育環境にかかわる課題に取り組む。	◎	○	○	○
保育内容の指導法(言葉)	領域「言葉」の指導の基盤となる乳幼児期の言葉の発達過程を学び、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識、保育者の資質能力を理解する。さらに領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、乳幼児の発達にふさわしい言葉の指導法を検討し、児童文化財の研究・保育実践を通して保育をデザインする実践力を獲得する。	1. 乳幼児期における言葉の発達過程について理解を深める。 2. 保育内容「言葉」のねらい・内容を理解し、発達にふさわしい言語指導法を学ぶ。 3. 言葉を育む児童文化財の教育的価値を教材研究と製作を行い、ICTを活用した模擬保育の発表・振り返りを通して理解する。	2	3～	前期	3	問題解決学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク	◎	○	○	○
保育内容の指導法(表現)	造形表現・音楽表現・身体表現の関係性を理解させるため、実践的に表現活動を経験させる。 発達を考慮した創造的な表現の可能性を探索させ、幼児の表現を援助・指導する方法を検討し、共有させる。	授業のテーマ 乳幼児期の表現の発達と意義について学び、幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境構成について理解し、援助・指導するための知識・技能・表現力を身につける。 到達目標 1. 幼児の自発的な表現である遊びを理解し、より豊かな表現へと援助することができる知識、技能・表現力を身につける。 2. 領域「表現」を総合的な活動として理解し、幼児の実態に合わせた援助・指導ができる。	2	1～	後期	2	身体・音楽・造形表現を総合的に含んだ模擬保育を共同で創造する	○	◎	○	◎
初等教科教育法(国語)	学習指導要領国語科の内容と構造を理解するとともに、教科書教材を活用して実際の学習指導案を作成したり、ワークシート等の教材開発を行ったりする。また、模擬授業を行い、知識・技能を高めるために演習を行う。 小学校教員の資格取得者として、国語科の授業を担当するための基礎となる知識・理解・技能を十分に習得する。 ☆Moodleをメインに使用します。Teamsを使用する可能性もあります。その場合は別途指示します。	1. 学習指導要領国語科は、育成を目指す資質・能力を3つの柱で整理されている。その構造と新たに提起されている深い学びへの「言葉の見方・考え方」や「精査・解釈」「構造と内容の把握」さらに特別な意味合いが込められている「考えの形成」「共有」等の概要について理解している。 2. 小学校国語科教科書にある教材のいくつかについて単元を構想した模擬授業ができる。 3. 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の内容を再構造化した単元構想のもとで学習指導案を書くことができる。	2	2～	前期	2	グループワークで協議したり、考えをシンキングツールを活用してプレゼンをしたりして学び合う。模擬授業では、相互評価をPMIチャートを活用して行いアドバイスしあう。	◎	◎	△	○
初等教科教育法(社会)	学習指導要領に示された小学校社会科の目標と内容、その背景を理解した上で、単元の計画や授業の構成、教材の活用、発問や資料提示の工夫を含む授業作りに関する学習理論や授業技術をふまえた学習指導案を作成し、模擬授業に取り組む。また作成した学習指導案や模擬授業の内容について相互にフィードバックを行い、受講者間の学び合いを通じて、社会科授業力の向上を目指す。	小学校社会科を通じて育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された目標と内容及び評価について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論をふまえた学習指導案を作成し、模擬授業に取り組むことにより、小学校社会科の授業実践力を身につけることができる。	2	2～	後期	2	指導案の作成及び模擬授業の実施に取り組む際、各自で授業テーマを設定し、指導案を作成した後に、グループごとに模擬授業を実施し、振り返りとフィードバックを行う。	◎	◎	△	○
初等教科教育法(算数)	算数教育の領域(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の全体構造、各学年の算数教育の目標と評価の考え方、児童の認識の発達、情報機器及び教材の特性を理解した上で、具体的な授業を想定した学習指導案を作成できることを目標とします。	(1)算数教育の全体構造と各内容の目標、評価の考え方が理解できる。 (2)児童の認識の発達や学習理論が理解できる。 (3)情報機器及び教材の特性を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案が作成できる。	2	2～	後期	2	◎	◎	○	○	



授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
初等教科教育法(理科)	理科教育の具体的指導方法について模擬授業や講義を通して理解し、理科教育の実践的指導力を身につける。	1. 小学校学習指導要領(理科)の概要(目標、全体構造、内容、留意点)について理解している。 2. 児童の実態や評価の考え方を踏まえ、ICTやアクティブラーニング等を活用した学習指導案(略案)を書ける。 3. 小学校理科教科書から身の回りの生物等の題材を取り上げ、背景となる学問領域を基に教材研究をした上で模擬授業を行い、子どもの認識や学習評価等を含めた多様な視点で省察ができる。	2	2～	前期	2	模擬授業をグループで担当し、準備・実施する	◎	◎	△	○
初等教科教育法(生活)	生活科創設の背景や意義、育成を目指す資質・能力の3つの柱と見方・考え方との関連、年間指導計画及び単元計画、授業計画の作り方・進め方、評価の考え方・方法等について、具体的な実践事例分析や検定教科書分析、NHK for Schoolの関連番組視聴を通して、ワークシートに考えや意見を記述しながら、できるだけ学校現場に近い手法で実践的に理解を深める。 なお、1回目の授業の方法や課題についてはCampusSquareから配信するのでご注意ください。また、対面で行えない場合は、教員からの課題提示及び受講生からの課題提出はCampusSquareを使用する。	生活の意義や目的、学習内容と指導計画案や具体的な指導の手立てについて理解する。 (1)生活科の創設の背景や意義及び他教科等との関連の在り方についての理解 (2)育成を目指す資質・能力の3つの柱と生活科の見方・考え方との関連についての理解 (3)年間指導計画及び単元計画、授業計画の作り方・進め方の理解 (4)生活科における評価の考え方・方法と教育効果についての理解	2	2～	前期	2	具体的な実践事例分析や複数の検定教科書の比較分析、チームによる単元開発などのアクティブ・ラーニング的な活動を多く取り入れ、学校現場に近い手法で実践的に理解を深める。	◎	◎	○	○
初等教科教育法(音楽)	子どもの自発的な表現や音楽的な環境、学習指導要領の内容を実践とともに学ぶ。 日本や世界の音楽に関して学び、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞を通して子どもたちが生涯にわたって音楽文化に親しむことができるよう指導する力を養う。	授業のテーマ 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を養い、音楽活動の様々な能力を培う。 子どもたちが音楽を体感し表現することによってより豊かに生活ができるよう、援助する力を養う。 到達目標 1) 小学校音楽科に関する知識を得ると共に、音楽の指導のために必要な能力を向上させる。 2) 「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「音楽活動の基礎的な能力」をかか、かわらせながら指導することができる。	2	2～	前期	3	学んだことを基にグループで模擬授業を計画し、分担して実践する。	◎	◎	○	○
初等教科教育法(図画工作)	・学習指導要領「図画工作」のねらい・内容を学び、指導案にまとめ、それを元に模擬授業を行う。 ・図画工作科教育の歴史と現状について学ぶ。 ・作品制作を通して指導に必要な造形表現の知識・技術を習得し、感性を養う。 Moodleを使って課題の提示・評価をする。	・造形表現活動の指導に必要な知識・技術と感性を身につける。 ・図画工作科教育の歴史と現状について理解する。 ・学習指導要領「図画工作」のねらい・内容を理解し、授業設計ができ指導案が書ける。	2	2～	前期	3	主体的に自分の表現したいイメージを表現し、表現について他者とコミュニケーションをとる。	◎	◎	○	○
初等教科教育法(家庭)	1. 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容について解説し、目標や内容 区分の変遷や特徴を理解させる。 2. 内容を題材レベルで捉え、その題材の学習内容を理解させ、目標達成のための 指導方法について考えさせる。 3. 学習評価を含めて、教材研究を通して学習指導案を作成し、それを具現化した模 擬授業を通して授業評価、授業改善を考えさせる。 4. Moodleをメインに行います。CampusSquareを使用するときもあります。	(1) 学習指導要領における家庭科の目標及び主な内容、家庭科の学習評価の考え方、並びに全体構造を理解している。個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 (2) 家庭科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、活用できる。 (3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	2	2～	前期	2	模擬授業やディスカッションをグループで行う。	◎	◎	△	○
初等教科教育法(体育)	体育科の目標・内容について、学習指導要領(平成29年度版)に基づき示していく。講義内容については、運動領域の内容を系統的に示し、体育授業の実践の在り方や指導案作成について講じる。 授業で使用するツールはMoodleを基本とする。	テーマ 子どもの体力低下、運動をする子としない子の二極化など、子どもの身体を取り巻く様々な課題が表面化している。この様な課題を踏まえ、小学校の体育科では、どのように授業を構想し、実践していけばよいかを考える。 到達目標 ①体育の授業づくりに必要な学習指導要領における体育科の目標・内容について理解する。 ②各運動領域の内容について理解する。 ③運動の楽しさを理解し、運動の苦手な子への配慮について考えることができる。 ④学習評価と学習指導過程との関連について理解する。 ⑤学習指導案を作成することができる。	2	2～	前期	2	学生が作成した指導案に沿って、模擬授業を行う。	◎	◎	△	○
初等教科教育法(英語)	本講義では、小学校での外国語教育に必要な知識および指導技術と英語での語りかけについて学び、コミュニケーションを中心とした授業作りについて学ぶ。 本授業はmoodleを用いてオンデマンド形式で行う。	[授業のテーマ] 小学校外国語活動の内容について十分に理解し&comma;指導と評価に関する基本的な知識と技術を身につける [到達目標] ① 小学校外国語活動・科目指導に必要な知識を身につける ② 活動の展開方法について学び&comma;理論に基づいた実践力を養う ③ 教材やカリキュラムについて理解し&comma;指導案の作成ができる	2	2～	後期	2		◎	◎	○	○
道徳教育の指導法	1. 道徳教育の内容や目標、指導計画の作成など基礎的な知識を理解する。 2. 模擬授業を行うことを通じて、指導案の作成、多様な指導方法、授業の評価など実践的な指導力を身につける。 3. 児童理解を深め、「励まし」「意欲喚起」の評価を理解する。 4. 道徳教育と今日的な課題について考え、議論することを通して道徳教育の使命を深める。 5. オンライン授業によって、学校教育における一人学習の意味と方法を理解する。  Campus Squareを使ってオンライン授業を実施します。	学校における道徳教育の基礎知識の理解を基盤に多様な学習指導方法の研究。 1. 小学校指導要領に基づき、道徳教育・道徳科の目標、内容、を理解できる。 2. 道徳科の指導計画、作成方法を理解できる。 3. 「自己の内面を見つめる道徳」「考える道徳」「語る道徳」を理解できる。 4. 指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。 5. 全教師が協力し合う指導体制を理解できる。 6. 道徳科における評価について理解できる。 7. 児童理解を深め、児童と共に向上する姿勢を身につける。	2	2～	前期	2	グループワーク指導案作成	◎	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
特別活動の指導法	遠隔授業や対面授業など、一部変更して展開する可能性があります。前半は学校における教育諸課題を認識し、主に学習指導要領等から特別活動の〔学級活動／ホームルーム活動〕・〔児童会／生徒会活動〕・〔クラブ活動〕・〔学校行事〕の目標や内容をはじめ、接近する基礎理論について学びます。後半は前半を踏まえ、特別活動の具体的な諸活動の指導法について、実践事例や体験学習、集団づくりや異年齢交流の方法など実践的指導力の基礎を獲得します。特に系統的なキャリア形成支援について扱い、職業調べ、職場体験学習、進路先調べ学習など具体的なキャリア学習実践の意義や方法を知ることとします。「キャリア・パスポート」の意義や使用方法も理解できることをねらいます。授業では、討議、グループ活動による事例研究を行いながら主体的・対話的で深い学びを経験します。	テーマは、学習指導と生徒指導の機能という学校の構造を踏まえ、特別活動が有す教育実践的な意義を知り、個と集団の枠組みから、相互主体的な了解指向型の合意形成に向けた集団形成等の指導法を身に付け、社会の形成者を育む反省的実践家教師としての社会的使命を醸成を目指します。目標は、初等中等教育における特別活動の特質や意義を知る。発達段階(校種)に応じた特別活動の目標と内容を理解して指導方法を理解して、①教材研究の方法を知り、②指導案や年間指導計画が作成でき、③模擬活動の実践ができる指導原理や技能を修得を目指します。これを踏まえ、特別活動の具体的な諸活動の特質や事例・実際について、体験的、対話的に学ぶことによって、「社会の形成者として必要な資質を備えた」児童・生徒を育成する新たな時代の学校教員に求められる企画力、思考力、実践的指導力の基礎を獲得することを目指します。	1	2～	後期	2	グループワーク	◎	◎	△	○
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の創設の背景と意義、教育課程上の位置づけ(各教科等との関連を含む)、単元計画・年間指導計画の考え方・書き方、情報の収集と整理・分析及び発信・表現の方法、地域素材の教材化及び人的・物的資源の活用・ICT活用、多様な評価の方法などに関して、ワークシートに従い、テキストと関連番組(NHK for Schoolの「ドスルコスル」)の事例分析を通して実践的に理解する。なお、オンデマンドになった場合は、教員からの課題提示及び受講生からの課題提出はCampusSquareを使用する。	(1)総合的な学習の時間の創設の背景と意義、教育課程上の位置づけ(各教科等との関連を含む)について理解する。 (2)総合的な学習の時間の単元計画・年間指導計画の考え方・書き方について理解し、実際に作成する。 (3)総合的な学習の時間の探究のプロセスである課題設定、情報の収集と整理・分析及び発信・表現の方法に関して具体的に理解する。 (4)地域素材の教材化及び人的・物的資源の活用・ICT活用について理解する。 (5)学習指導のポイント及び多様な評価の方法について理解する。	2	3～	後期	3	具体的な事例分析やアクティブ・ラーニング的な活動を多く取り入れ、学校現場に近い手法で実践的に理解を深める。	◎	○	○	◎
生徒指導・進路指導論	幼稚園、小・中・高等学校における生徒指導・進路指導の位置づけ、意義及び指導内容、方法について理解できるようにすることを目的とする。	1. 生徒指導・進路指導を全教育課程の中に位置づけることができる。2. 発達段階に沿った生徒指導・進路指導の目標や内容が分かる。3. 進路指導をカウンセリングを含めた生徒指導との関連を自分の考えで述べることができる	2	2～	後	2		◎	◎	○	○
教育実習Ⅰ	この授業は幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に「教育実習Ⅱ(幼稚園)」の事前・事後指導として、実施するものである。授業を通じて、幼稚園教育実習履修するために必要な知識、理解を深め、保育技術を習得する。また、実習後は実習を反省・評価し、各自が今後の自己課題を明確にする。	1. 幼稚園の機能と役割について理解する。 2. 実習生としての心構えとマナーについて理解する。 3. 実習日誌の記録方法、指導計画の作成方法を理解する。 4. 実習に必要な保育技術を実践的に習得し、実践できる。 5. 目標とする幼稚園教諭像を具体化し、自己課題を明確にできる。 6. 実習での体験、評価、反省を通じて新たな自己課題を明確にできる。	1	3～	通年	3	グループワークで協議したり、考えをシンキングツールを活用してプレゼンをしたりして学び合う。模擬授業では、相互評価をPMIチャートを活用して行いアドバイスしあう。	○	◎	◎	◎
教育実習Ⅱ	「教育実習Ⅱ」は幼稚園での教育・保育を実践的に体験することを通じて、幼稚園教育の機能と役割を理解し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を修得することを目的とする。	1. 幼稚園教師の職務内容を具体的に理解し、保育に積極的に参加することができる。 2. 子どもの発達を踏まえて、一人ひとりに相応しい援助や配慮について考察できる。 3. 指導計画を立案し、実際に保育を実践できる。 4. 実習の中で観察したこと、子どもとの関わりの中で考えたこと、理解したことを正確に記録し、振り返ることができる。 5. 日々の実習における反省・評価を通して、明確な課題設定ができる。	4	3～	通年	3		○	◎	◎	◎
教職実践演習(幼・小)	これまでの専門科目、教職科目および教育実習などで得た知識および経験をふまえた上で、演習形式によって、小学校教員としての実践力、小学校教員の専門的役割、子ども理解や学級作りの方法および保護者や地域との協同およびコミュニケーションの方法など、これからの小学校教諭に求められる実践力を身につける。	教育実習での出来事を具体的にふりかえることを通して、学習指導、生徒指導および学級経営のさまざまな方法を実演でき、問題場면을解決する方略を示せる	2	4	後期	4	グループワーク グループディスカッション	○	◎	◎	◎
国語概論	大人としての品格を身につけた言葉の使い方を学ぶ。特に、表現力の向上を目指し、表現する作業を多く取り入れて、具体的な場面での正しく美しい言葉の使い方を身につける。また、言語活動を通じた交流によって、どのような表現活動が優れているかを理解する。 ☆Moodleをインに使用します。Teamsを使用する可能性もあります。その場合は別途指示します。  また②10月3日、⑤10月24日、⑩11月28日、⑫12月5日は対面授業を予定しています。	1 表現力を磨くためのさまざまな表現様式を軸とした言語活動を行うことができるようにする。 2 表現するための語彙を増やし、実際に使うことができる技能を身に付ける。 3 言葉の力を高め自己理解に基づく表現活動ができるようにする。	2	1～	後期	1	グループワークで協議したり、考えをシンキングツールを活用してプレゼンをしたりして学び合う。言語活動では、相互評価をPMIチャートを活用して行いアドバイスしあう。	◎	◎	○	○
社会概論	・小学校社会科で取り扱う多様な教材、テーマを取り上げ、それらの実態や課題を学び、教材研究の方法について理解を深める。 ・受講者の状況に応じて、討論やフィールドワーク、プレゼンテーション等を取り入れながら、社会科の授業作りに取り組むための実践的な力を養う。	・小学校社会科において扱う学習対象やテーマについて理解することができる。 ・小学校社会科授業の教材研究の方法を身に付け、社会科の授業作りに活かすことができる。	2	3～	後期	3	社会科の学習フィールドとなる社会施設の見学や調査学習に取り組み、その内容を相互に発表する。	◎	○	△	○
算数概論	算数教育の領域(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の全体構造、各学年の算数教育の目標と具体的な内容、数学的活動とは何か、現行の算数教育がめざす学力とその課題について、理解できることを目標とします。	(1)算数教育の全体構造、各学年の目標と具体的な内容が理解できる。 (2)数学的活動は何かを理解できる。 (3)算数教育の歴史的変遷、現行の算数教育がめざす学力とその課題が理解できる。	2	3～	前期	3		○	○	◎	◎
理科概論	学習指導要領(理科)の内容、および運用の実際を知り、実験・観察の基礎技能を習得するとともに理科教育への理解を深める。	1. 理科各分野の概要について説明できる。 2. 理科の基礎的な実験・観察用具の使用法や安全管理について説明できる。 3. 理科に関心がもてる。	2	1～	後期	1	実験器具操作についてグループ活動を実施	◎	○	○	△



授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
生活概論	・小学校生活科授業の特色や背景、諸実践について学び、生活科授業を実践する上で必要な知識について、理解を深める。 ・生活科授業の学習対象となるものや学習活動の内容について親しみ、理解することを通じて、生活科授業を実践するための教材研究を行う。 ・コロナ感染拡大に伴い内容が変更される可能性がある。	・小学校生活科授業の目標や教科の特徴を理解することができる。 ・小学校生活科授業の年間計画、単元計画、指導案の考え方について理解を深める。 ・小学校生活科授業において扱う学習対象についての理解を深める。	2	4	前期	4	生活科の授業実践に資する教材開発に、グループごとにアイディアを出し合いながら取り組み、それらを用いた交流活動に取り組む。	○	◎	△	◎
家庭概論	1. 学習指導要領における家庭科の目標及び主要内容について解説し、目標や内容区分の変遷や特徴を理解させる。 2. 内容を題材レベルで捉え、各内容の意義や特徴、それぞれの題材の目標を調べ、その題材の学習内容を理解させる。 3. 家庭科指導に関連して、他教科との関連や食育、持続可能な社会を目指す家庭科について理解させる	(1) 小学校学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。  1) 内容ごとに題材レベルで、目標や学習内容、留意点等を理解できる。  2) 学習内容を実践的に体験することにより、指導についても考えることができる (2) 家庭科に関連する学習内容について、調べたり考察したりできる。  1) 家庭科と他教科との連携や関連について理解し、家庭科の生かし方を考察することができる  2) 食育や持続可能な社会に向けた教育における家庭科の役割が分かる。	2	1～	前期	1	グループワーク	◎	○	△	○
英語概論	小学校外国語(英語)教育に関する基本的な知識・理解を修得し、英語やその背景にある文化及び異文化コミュニケーションについて理解を深め、小学校における外国語科(英語)の授業に失する知見を身につける	①英語に関する基本的な知識について理解できる②実際のコミュニケーションにおいて「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を活用できる技能を修得する  ③英語圏の文化の多様性や異文化理解等、英語の背景的な知識について理解できる	2	1～	後期	1		◎	○	△	○
器楽・声楽Ⅰ	子どもの音楽表現を引き出し、伸ばすために役立つ、器楽・声楽の基礎的技術を養う。 読譜力、テンポ感、リズム感、音楽表現力などの、子どもたちを援助することができる音楽的基礎能力を身につける。	1) □アノ曲、弾き歌い曲、リズム曲を進度に応じて演奏できるようにする。 2) 楽典を学び、コード伴奏の基礎を習得する。 3) 田どもへ配慮とともに音楽的な支援をおこなうことができる。	1	1～	後期	1		◎	○	○	△
器楽・声楽Ⅱ	・子どもの音楽表現を引き出し伸ばすために役立つ、器楽・声楽の技術を養う。 ・読譜力、テンポ感、リズム感、音楽表現力などの、子どもたちを援助することができる音楽的能力を身につける。	1) □アノ曲、弾き歌い曲、リズム曲を進度に応じて演奏できるようにする。 2) 楽典を学び、コード伴奏と変奏を習得する。 3) □レンジの方法を学ぶ。	1	2～	前期	2		◎	○	○	△
絵画・造形Ⅰ	・造形教育の指導・援助に必要な知識・方法について学ぶ ・作品制作を通して子供の造形表現を理解し、造形表現の基礎的な知識・技能を習得し感性を養う	造形教育の指導・援助に必要な知識・方法と、造形表現の基礎的な技能と感性を身につける。	1	1～	前期	2	主体的に自分の表現したいイメージを表現し、表現について他者とコミュニケーションをとる。	◎	○	○	△
絵画・造形Ⅱ	・造形教育の指導・援助に必要な知識・方法について学ぶ。 ・「絵画・造形1」の学びを基に作品制作を通して造形表現の発展的な知識・技能を習得し、感性を養う。	造形教育の指導・援助に必要な知識・方法と、造形表現の発展的な知識・技能と感性を身につける。	1	1～	後期	3	他者と能動的にコミュニケーションをとりながらイメージを共有し共同制作をする。	○	◎	◎	○
体育Ⅰ	仲間との協同学習を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、楽しい体育学習(小学校)、運動遊び(幼稚園)のあり方について実践的に学修する。	・運動遊びの持つ意味を理解し、豊かな運動遊びを実践するための保育者の役割を理解することができる。  小学校体育への接続を理解することができる(知識)。 ・仲間と共に活動する体験を通して、子どもに寄り添う支援・指導の技術について考えることができる。(思考・判断・表現)  体育指導の基本的な事項を習得することができる(技能)。 ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる(関心・意欲)。	1	1～	前期	1	協働による就学前/中期の運動指導技術の習得	○	○	○	△
体育Ⅱ	体育Ⅰでの学修を基に、仲間との協同学習を通して、各種目の運動技能を高めると共に、楽しい体育(小学校)、運動遊び(幼稚園・保育園)のあり方について実践的に学修する。	・運動遊びの持つ意味を理解し、豊かな運動遊びを実践するための保育者の役割を理解することができる。さらに、小学校体育への接続を理解することができる(知識・理解) ・仲間と共に活動する体験を通して、子どもに寄り添う支援・指導の技術について考えることができる。(思考・判断) ・体育指導の基本的な事項を活用し、指導する姿勢を学ぶことができる。(技能・表現) ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる(関心・意欲)	1	1～	後期	1	体育の技能について、相互の教え合いによる課題の解決の方法について学ぶ。	◎	◎	△	○
社会福祉学	本科目では、「社会福祉」の基礎的理解を得るために、以下の5つのテーマに基づき学習を進める。 (1)現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 (2)社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 (3)社会福祉における相談援助について理解する。 (4)社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 (5)社会福祉の動向と課題について理解する。	授業のねらいに示した(1)～(5)を中心に社会福祉全般に関する基礎的事項を説明することができる。 社会福祉全般に関する基礎的学習の成果から、保育者・教育者(保育士・幼稚園教諭等)に求められる社会福祉の専門性について自身で考察することができる。	2	3～	前期	3	児童虐待等に関する時事ニュースを授業に取り入れ、学生自ら課題点を考えられるよう教材を提示している。	◎	△	○	○
社会福祉援助技術	相談援助の方法について知り、理解できるようになることを目的とする。相談援助の具体的展開について事例をもとに学習する。保育者に求められる相談援助の専門性を獲得できるようにする。	相談援助の方法について説明できる。 相談援助の事例ごとに自分の意見を述べることができる。 相談援助の専門性とは何かを説明できる。	1	4	後期	4		◎	○	◎	◎
子どもの保健	子どもの発育と発達を理解した上で、子どもの健康を維持増進していくために知っておくべき知識を得、実践に役立てられるようになることを目的とする。	小児保健に関する知識を得、子どもの健康のために必要とされる支援、配慮の仕方などを学ぶ。	2	2～	後期	4		◎	○	○	◎
子どもの食と栄養	「人は食べ物によってできている」と言っても過言ではない。また、食へることは生涯にわたる楽しみの一つである。発育・発達途中である子どもの身体と心を育成するための食生活と栄養の知識を理解する。	子どもの成長段階に応じた栄養と、正しい食習慣を身に付けるための食育を理解し、子どもの健全な食生活の設計に貢献することができる。	2	3～	前期	3		◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
家庭支援論	・生活の最小単位である家庭について、その歴史の変遷、その機能・意義、それをとりまく社会的状況を理解する ・現代家族が抱える諸課題に基づいて、家庭を支援することの必要性・意義を理解する ・家庭を支援するための法体系・施策体系、家庭支援の取組を知る なお、この授業はオンラインで(MOODLEを通したオンデマンド方式)進めています。	・子育ての基盤である家庭、家庭をとりまく社会的状況と家庭が抱える課題についての理解を深め、そうした課題に対して自分の意見を述べる ・家庭支援の必要性や意義と実施体制、家庭支援の実際・実態について理解し、そうした実態に対して自分の意見を述べる ・特別な支援・配慮を必要とする家庭の特徴とその支援の実際・実態異について理解し、そうした実態に対して自分の意見を述べる ・家庭支援における保育士等専門職の役割を具体的に説明できる	2	4	前期	4		◎	○	◎	○
乳児保育 I	乳児を取り巻く環境を知り、教育・保育施設において実践されている乳児保育の意義・目的・役割を学ぶ。 小児科学的観点も含めた、乳児の成長・発達についての基本理解を深める。	乳児期の成長・発達を理解する。 乳児保育の現状と課題、および、意義・目的・役割を理解する。	2	2～	前期	2		◎	◎	○	○
乳児保育 II	乳児は生まれながらにして持っている力を使い、周囲に積極的に働きかけ能動性を発揮している。しかし、乳児の能動性は、信頼できる周囲の大人との応答の中に組み込まれており、応答なくしては能動性を発揮することができない。 本授業においては、乳児の成長・発達の基本を理解するとともに、乳児の運動面の発達・社会性の発達・言葉の発達の関連についての学びを深める。さらに、乳児への応答について考え乳児保育の実践力を高める。 1回目の授業は、Moodleを用いてオンデマンド配信します。	乳児期の成長・発達の理解を深め、乳児保育の実践力を身につける。	2	3～	前期	3		○	◎	◎	○
特別支援教育	ノーマライゼーションの浸透およびインクルージョンの進展にともない、幼児期・児童期の保育・教育施設では、障害の内容や有無にかかわらず、障害児と健常児とが対等な関係の中で、生活や学びを通して成長・発達していくことが保障されなければならないとされています。 この授業では、こうしたインクルーシブな保育・教育の場—成長・発達の場—を構築していくために必要とされる保育士・保育教諭・幼稚園教諭・小学校教諭等による支援のあり方を、障害児保育・教育に関連する理念・理論、障害特性の理解と個別の計画に基づく援助、家庭や園・校内の職員間および園・校外の専門職との連携等の視点から学ぶことを目的とする。 *なお、この授業に初回のみは「オンデマンド」方式(Moodle)のオンラインで実施しますので、留意してください。	以下の6点がこの授業の到達目標である。 1.インクルーシブ社会や合理的配慮等の特別支援教育を支える理念を理解する。 2.障害教育から特別支援教育へと政策が転換された背景(理由)を理解する。 3.特別支援教育やこれに関連する障害児等を対象としたサービスの現状を理解する。 4.障害児の抱える困難さとそれらを踏まえた具体的な援助・支援を理解する。 5.事例を通して、保育・教育の視点を備えた個別の指導計画を作成することができる。 6.家庭との連携、園内・校内の職員間の連携、施設外の諸資源における専門職等との連携について知る。	2	3～	前期	3		◎	○	◎	△
社会的養護内容	本科目では、「社会的養護」の実際について、以下の5つのテーマに基づき学習を進めていく。 (1)子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 (2)施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 (3)社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 (4)社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 (5)社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。	授業のねらいに示した(1)～(5)を中心に社会的養護の実践に関する基礎的事項を説明することができる。 社会的養護に関する学習の成果から、子どもの最善の利益を考慮した社会的養育の実践方法、子どもと家庭(保護者)への支援の実践のあり方について自身で考察することができる。	1	2～	前期	2		◎	○	◎	◎
保育実習 I A	講義などで習得した知識や技能を基礎として、保育所の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の機能や保育士の職務内容について学ぶ。 実習であるため、CampusSquareやMoodleを使用しては行いません。	1.配当された保育所で意欲的に実習に取り組む。 2.保育所の役割や機能を具体的に理解する。 3.観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 4.既習の教科の内容を踏まえ、保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 5.保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 6.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	2	2～	通年	2	保育実習の場で行う 大学で身につけた知識や 技能をもとにした実践学 習	○	○	○	◎
保育実習 I B	・講義などで習得した知識や技能を基礎として、児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の機能や保育士の職務内容について学ぶ	・配当された施設において、意欲的に実習に取り組む ・乳児院、児童養護施設等の役割や機能を具体的に理解する ・子どもの観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める ・既習の教科の内容を踏まえ、保育・養護および保護者への支援について総合的に学ぶ ・保育・養護の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ	2	2～	通年	2		◎	○	◎	○
保育実習指導 I A	大学での学びを基礎に、保育実習 I Aの目的、内容、方法を理解し必要な知識や技術を身につける。実習への意欲を高める。保育実習 I Aを振り返ることによって自己課題を明確化し学びを定着させる。大学での学びとの統合を図る。	1. 保育所の役割や機能を理解する 2. 子どもの理解の重要性を学ぶ 3. 既習の教科の内容を踏まえ、保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について理解する 5. 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ 6. 保育実習 I Aを適切に振り返り、成果と課題を明確にする	1	2～	通年	2	保育実習を想定した保 育所での観察実習	○	○	◎	○
保育実習指導 I B	・大学でのこれまでの学びを基礎にして、保育実習 I Bの目的、内容、方法を理解し、実習参加に必要な知識や技能を身につける。 ・実習への意欲を高める。 ・保育実習 I Bを振り返ることを通して、自己課題を明確化し、学びを定着させる。 ・実習での経験と大学での学びを統合させる。	・それぞれの施設にびて、意欲的に実習に取り組む。 ・乳児院、児童養護施設等の役割や機能を理解する。 ・子どもの観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 ・既習の教科の内容を踏まえ、保育・養護(および保護者への支援)について総合的に学ぶ。 ・保育・養護の計画、観察、記録および自己評価などの方法について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。 ・保育実習 I Bを適切に振り返り、成果と課題を明確化する。	1	2～	通年	2		◎	○	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
子育て支援論	近年著しく変化する子育てを取り巻く環境を多角的にとらえ、幼稚園・保育所・地域が「子育て」に対して果たす役割について理解を深めることを目的とする。	1. 子育て支援活動が重視されるようになった社会的背景を理解できる2. 子育て支援における幼稚園・保育所・地域の役割を考察できる3. 具体的な子育て支援の内容と方法を調査し、説明できる4. 子育て支援についての課題について理解できる	2	4	後期	4	調査学習 グループディスカッション	○	◎	○	◎
地域福祉論	学生が地域福祉について知り、理解できるようになることを目的とする。地域福祉の理念と概念について理解する。地域福祉の発展・政策展開・推進方法を認識する。子どもと地域福祉について知り、地域福祉における子どもについて考察する。	地域福祉とは何かや地域福祉の理念や概念についてを説明できる。 地域福祉の発展・政策展開・推進方法について、自分の意見を述べるができる。 地域福祉における子どもについて分析できる。	2	4	前期	4	地域福祉のネットワーク 必要性を考えさせるために、児童虐待の検証結果を資料として、課題点を明らかにする目的で議論する。	○	△	○	◎
保育実習Ⅱ	保育実習ⅠAや大学での学びを基礎に、保育所における実習を通して、実践力を向上させる。保育士としての資質を高め、保育所保育士としての専門性を培う。 実習であるため、CampusSquareやMoodleを使用しては行いません。	1.保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 2.総合的な実践力を試す。 3.子ども理解を深める。 4.家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	2	4	通年	4	保育実習の場で行う、大学4年間で身につけた知識や技能をもとにした実践学習	◎	○	○	◎
保育実習指導Ⅱ	事前指導を通して、保育実習Ⅱを有意義に行うための保育士に必要な知識や技術を習得する。保育実習への意欲を高める。事後指導を通して、学びを定着させ保育実践に繋がる課題を明らかにする。	1.保育実習Ⅰの成果と課題を明確化する 2.責任実習の意味を理解する3.保育所保育の意義や役割を再確認する4.一日を想定した指導案や実習日誌を適切に書く 5.保育実習Ⅱを振り返る～記述・口頭；一人・グループ～ 6.自己課題を明確化する	1	4	通年	4	保育実習を想定した課題解決学習	○	○	◎	○
保育実習Ⅲ	・保育実習ⅠBや大学での学びを基礎として、児童福祉施設において実習をおこなうことを通して、施設保育士としての実践力や専門性などの資質を高める。	・実践を通して、児童福祉施設(保育所を除く)の役割や機能に関する理解を深める。 ・家庭と地域の生活実態にふれることで、子ども家庭福祉および社会的養護に関する理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれることを通して得られた子ども家庭福祉や社会的養護に関する理解に基づいて、保護者支援、家庭支援、入所児等の支援に求められる知識・技能・判断力を養う。 ・具体的な実践と結びつけて、保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 ・保育士としての自己課題を明確化する。	2	4	通年	4		○	◎	◎	◎
保育実習指導Ⅲ	・児童福祉施設(保育所を除く)等における保育実習をおこなうにあたって、受け入れ施設の社会的な位置づけと、受け入れ施設の現状・課題とを理解する。 ・児童福祉施設において実習をおこなうにあたっての心構えを整えとともに、自己課題の設定をする。 ・保育実習の振り返りを通して、社会的養護のさらなる理解と社会的養護・子ども家庭福祉にかかわる保育士としての自己覚悟を高める。 ※事前指導1日4コマの集中講義、事後指導1日4コマの集中講義で実施する。	・受け入れ施設が提供する教育・サービスの仕組や実態を説明できる。 ・受け入れ施設が抱える課題を考えることができる。 ・家庭と地域の生活実態にふれることを通して、子ども家庭福祉や社会的養護に関する理科を深める。 ・上記の理解に基づいて、入所児支援、保護者支援、家庭支援に求められる知識・技能・判断力を養う。 ・保育実習の内容を内省することを通して、保育士としての自己課題を明確化する。	1	4	通年	4		○	◎	◎	
保育の表現技術	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、教材等の活用及び作成、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。	・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境、保育所保育指針の内容を理解する。 ・体を使った伝承遊びに親しむ体験を通して、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識や技術を習得する。 ・音楽、造形に親しむ体験を通してイメージを豊かにし、感性を養うための環境の構成と保育の展開に必要な知識や技術を習得する。 ・児童文化財に親しむ体験における様々な素材や教材等の特性の理解、活用や作成に必要な知識及び技術を習得する。	2	1～	前期	1	遊び・音楽・造形・児童文化財についての実践学習	◎	○	○	○
総合表現	1.保育・教育の創作・表現学習を通して総合的な表現(総合子どもカーニバル)を創造する。 2.各表現領域を総合的にとらえ、自己の役割を自覚してグループ成員相互で高め合い、協議しながら発表へと発展させる。 #SDGs	表現領域で学んだことをもとに創造的に制作に取り組み、将来日常の保育・教育や生活発表会・文化祭において領域相互を関連させながら指導し、子どもの表現活動を支えられる力を養う。また、創造する過程で、互いに協調し合いコミュニケーション能力を高めることができる。	2	2～	後期	3	表現領域の学びを生かして主体的に共同して制作をおこなう。	△	○	◎	◎
子どもと遊び文化Ⅰ	子どもの遊びや文化の意味を考え、幼稚園教育においてどのような子どもの文化財が望ましいかを理解する。保育実践に求められる遊びの指導法を習得する。	・子どもの文化の意味を知り、さまざまな子どもの文化財を理解する。 ・幼稚園教育における子どもの文化財の果たす役割を理解する。 ・絵本の歴史・内容を知り、子どもにふさわしい絵本を作り、演じることができる。	2	3～	後期	3	子どもにふさわしい紙芝居作りと模擬授業	○	○	○	◎
子どもと表現Ⅰ	弾き歌い・動きのためのリズム曲ほかの実践的な演奏技術と身体表現を連動させ、また表現領域他の授業での学びを生かし、総合的な表現活動(例:音楽付きの児童文化財の実践、生活発表会など)を立案し、表現する。	子どもたちの総合的な表現活動(自己表現を楽しめる遊び)を援助するための技術と、子どもの表現に対する理解を深める。 音声・音楽表現と身体表現を総合的にとらえ、遊びを通した創造的、総合的な活動を援助することができる。	2	3～	前期	4	主体的に表現活動を創造し、共同して創作に取り組む。	△	○	○	◎
子どもと表現Ⅱ	・さまざまな素材を扱うことで幅広い表現の可能性を探ること、また表現領域他の授業での学びを生かし総合的な表現活動(作品発表会、パフォーマンスなど)を立案し、表現する。	子どもたちの総合的な表現活動(自己表現を楽しめる遊び)を援助するための技術と子どもの表現に対する理解を深める。	2	3～	後期	3		△	◎	○	
子どもと遊び文化Ⅱ	諸外国の幼児教育で活用されている文化財や保育教材を理解するとともに、我が国の幼稚園教育要領に示されている領域「言葉」、領域「環境」の内容をふまえ、遊びの中で文字や数量に興味・関心を持つ保育の指導法について学ぶ。その際、絵本、歌、劇遊び等を中心にグループでのロールプレイや模擬保育を通じて実践力を習得する。	授業のテーマ及び到達目標1. 子どもの文化の意味を知り、諸外国の子どもの文化財について理解する。 2. 諸外国の幼児教育における文化財の役割について理解する。 3. 絵本、歌、劇遊びの実践を通じて、言葉の響き、リズム、表現の楽しさを伝える保育方法および指導法について理解する。	2	3～	後期	4	グループワーク	○	○	○	◎



授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
子どもの医療と安全	子どもがかかりやすい病気、子どもに起こりやすいケガ・事故、その予防策を提示し、実際の事例について幼稚園・保育所での対応の仕方について検討する。	子どもがかかりやすい病気、子どもに起こりやすいケガ・事故、およびそれぞれの予防策を理解し、幼稚園・保育所における子どもにとって安心・安全な環境を考えることができる。	2	3～	後期	3	グループワーク	◎	◎	○	○
病児保育演習	感染症および感染症に罹患している子どもの状態、環境調整や予防策について、実際の事例も含めて提示し理解を深め、幼稚園に対する対応についても論ずる。	病児保育、感染症および感染症に罹患している子どもについて理解し、病児の保育教育についての注意事項を学び、幼稚園に対する対応方法を習得する。	2	3～	後期	4	グループワーク	○	○	◎	◎
子ども家庭支援の心理学	<本科目の概要>この科目は、2019年度入学生適用の保育士養成課程の新カリキュラムから新設されたものです。この背景には、もちろん、保育や子どもおよび子育て家庭を取り巻く社会状況の変容があります。また、この科目は、旧カリキュラムにおける「保育の心理学Ⅰ」「家庭支援論」「子どもの保健」という3つの科目が整理・統合されたものです。4年生の皆さんは、前期に「家庭支援論」を履修していますので、その内容と極力重ならないような構成にしています。一方、特に講義の前半では、過去の講義で学んだ生涯発達理論や発達各期の課題について復習します。これらは皆さんが保育者や教員として、家族や家庭の援助を通じて子どもの発達を支援していくに当たり基盤となる知識です。4年間の学びの集大成として取り組み、知識の定着を図っていただけることを期待しています。 <授業のねらい> 保育士は対人援助(支援)職の一つです。誰を支援するのかといえ、主に「子ども」と「その保護者」です。子どもの支援にかかわっては、子どもの育ちにとって初期環境(初期経験)が重要であることや子どもの一人ひとりの発達過程に寄り添うことの重要性を理解することが必要です。これが授業前半のねらいです。保護者の支援にかかわっては、親子関係が不調にならないように(子どもの育ちが阻害されないように)予防すること、それに加えて保護者が前向きに育児を楽しめるようエンパワメントすること(子どもの育ちを促進することに繋がります)が重要であることを理解することが必要です。これが授業後半のねらいです。	・人の生涯発達と各期の課題について説明できる ・子どもの発達を親子や家族関係との関連から説明・支援できる ・家庭支援を通じて子どもの心の問題の解消に寄与できる ・専門家との協働により特別な配慮や支援の課題に取り組むことができる ・結婚および妊娠・出産に関する人々の意識から少子化社会の問題点を指摘できる ・男女の産後うつとそれが子育ての実際に及ぼす影響について説明できる ・育児不安とは何か、それが生じる社会的背景、それを予防する国事業について説明できる ・わが国の児童虐待の現状、児童虐待対策の特徴を説明し、今後の対策の方向性について提起できる	2	4	後期	4		◎	◎	◎	◎
教職実践基礎演習Ⅰ	1 小学校教員についての関心を持ち、小学校教員をめざそうとのモチベーションを高める。 1 小学校の各教科の内容について理解するとともに、基礎的な知識を習得する。 2 教員採用試験に向けた意欲を高める。	1 小学校の各教科の内容の概要を説明できる。 2 教員採用試験に向け準備しようとする意欲がある。	2	1～	後期	1	グループで説明しあったり、情報を交流しあったりして学び合い、相互にアドバイスしあう。	◎	○	◎	△
教職実践基礎演習ⅡA	小学校教員採用試験に出題される筆記試験の範囲のうち、主に小学校全科に関わる内容について、過去問等から出題の方法や傾向を知ると共に、扱われる内容への理解を深める。 また小学校授業参観を実施し、小学校現場における授業実践を学ぶ。ただし、コロナ感染拡大の状況をふまえて内容を変更する可能性がある。	小学校教員採用試験に出題される筆記試験の範囲のうち、主に小学校全科に関わる内容について、過去問等から出題の方法や傾向を知り、その内容への理解を深め、自らの課題や計画についての見通しを持つことができる。 小学校授業参観を通じて、授業研究を行い、自身の授業実践力を高めることができる。	2	2～	前期	2	異学年との交流の機会を設定し、グループワーク等を通じて、学びを深める。	◎	△	○	◎
教職実践基礎演習ⅡB	教職への知識・意欲を高め、小学校理科および外国語科の指導力を身につける。	理科の生物・地学に関する基礎的な問題を解くことができる。 外国語に関する基礎的な知識を得る。	2	2～	後期	2		◎	○	◎	△
教職実践基礎演習ⅢA	小学校教員に必要な教養(特に数学・理科)と教職への態度を身につける。 ※第1回目の授業はmoodleを使ったオンライン授業となります	1. 自然分野(数学、理科)の基礎的な知識を説明できる。 2. 教職に関心をもてる。	2	3～	前期	3		◎	○	◎	△
教職実践基礎演習ⅢB	・小学校教員採用試験の筆記試験において出題される一般教養及び教職教養分野に関する諸分野の知識を習得し、理解を深める。 ・小学校教員採用試験の人物試験において課される面接、論作文、討論、場面对応、模擬授業、実技試験等の内容を理解し、それぞれの課題への対応力を身につける。	・小学校教員採用試験の筆記試験において出題される一般教養及び教職教養分野に関する諸分野のうち、とりわけ教育関連法規や学習指導要領等の教育関連資料の重要事項を理解し説明できる。 ・小学校教員採用試験の人物試験において課される面接、論作文、討論、場面对応、模擬授業、実技試験等の内容を理解した上で、それぞれの課題への対応力を身につけることができる。	2	3～	後期	3	異学年との交流の機会を設定し、グループワーク等を通じて、学びを深める。また討論型の授業や受講者同士の相互評価に取り組みながら、学びを深めている。	◎	△	○	◎
教職実践基礎演習Ⅳ	1 小学校教員採用試験に向けて少人数指導を行うことにより、個々の受験希望自治体や学習状況を配慮した指導を徹底する。 2 実際に採用試験で実施される個人面接、集団面接、集団討議などの面接場面を想定した指導や小論文指導、模擬授業指導、実技指導への対応を行い、受講生個々のニーズにあった指導を徹底する。なお、本授業においては、アクティブメールによる添削、キャンパススクエア及びmoodleの利用による資料提示、課題提示、課題提出、質疑応答や情報共有等を行う。また必要に応じてzoom等の活用によるオンライン面接を実施する。	1 個人調書の書き方や自己分析の方法、希望自治体の情報等をもとに、受験対策を徹底する。 2 採用試験に向けた対策を行い、面接力や模擬授業力、論文力などを向上させる。	2	4	前期	4	・学生が作成した指導案に沿って、模擬授業を行う。 ・教育的課題についてのディベートを行う。	◎	○	◎	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講 区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きくださ い)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と 創造的思考力(実践 力)
幼保実践演習Ⅰ	保育士、幼稚園教諭を目指す学生が、実習あるいは就職後の保育現場で必要となる、実践力を養うことを目指す。 具体的には、保育指導案を作成し、それに従って保育を行い、その保育を振り返る作業を通して、保育者としての実践力を身につける。 この授業では、保育実践をビデオで記録し、後でそれを学生、保育士、教員と一緒にしながら実践について振り返る“保育ビデオカンファレンス”を行う。保育を語り合うことで自らの保育を振り返り、多様な視点に気づくことでそれぞれが保育の力量を向上させていく。	1. 保育環境、対象となる子どもの年齢、保育者間の連携に配慮した保育計画を作成できる。 2. 保育計画をもとに、状況に応じて実際に保育を行うことができる 3. 自らの、また他者の保育を振り返りながら、自分の気づきやアイデアを相互に伝え合い学び合うことができる。	2	3～	前期	4	甲南こども園を対象として保育の計画・実践・反省・評価を行う実践学習	○	○	○	◎
幼保実践演習Ⅱ	保育士・幼稚園教員としての自己像を確立し、幅広い一般教養と専門知識を身につけることを目標として次のことに取り組む。1. 幼児教育、保育に関する今日的課題についての理解を深めるとともに、それに対する自分なりの考えをまとめ、自分の保育観を確立する。2. 保育実践場面で遭遇することが予想される事案について、自分なりの対応を検討する。 第1回目の授業は、オンデマンドで行う。それ以降は対面授業を原則とする。 「論作文の書き方」の授業では、毎回論作文の提出を課す。	受講生の各自が、幼稚園教育要領、保育所保育指針を理解した上で、自らの保育観を確立し、その保育観に沿った場面对応ができるようになる。また、自らの保育観や保育場面で対応について、自分なりの言葉や文章で説明することができる。	2	4	前期	4	自らの保育観や場面对応の仕方を確立するために、口頭試問形式で発表したり、論作文としてまとめたりする。	○	◎	◎	◎
海外演習	海外の学校訪問や演習により、これまでに学んだ言語教育、異文化教育関連科目で培った専門知識を実践的、体験的に深める。異文化での体験を通して、豊かな教養と広い視野を養う。	1. 海外の幼児・児童教育と日本の教育の違いについて学び、知識と経験知を身に付ける。2. 異文化への理解を深め、文化的多様性を涵養する。3. 容易な外国語を用いて歌やゲームの指導ができる。	2	2～	後期	2	グループで保育・教育実践を行う。学習体験・成果について、報告を行う。	○	○	◎	◎